

# 査読能力向上ワークショップ

加登豊 名古屋商科大学ビジネススクール教授 神戸大学名誉教授

松尾貴巳 神戸大学大学院経営学研究科教授

安酸建二 近畿大学経営学部教授

岡田幸彦 筑波大学大学院システム情報工学研究科教授

船越多枝 大阪経済大学経営学部准教授

喜田昌樹 滋賀大学経済学部 教授



# 本ワークショップ開催の目的

1. 査読制度についての理解意を深める
2. 学術雑誌に投稿された論文の査読に関与する者の能力向上を図る
  - ① 研究の進展に貢献する
  - ② 学会活動をさらに活性化する
  - ③ 研究者としてのキャリア設計に資する
  - ④ 社会人教員への道を拓く
  - ⑤ 社会人の研究成果を学術研究として刊行する
  - ⑥ 産学連携の一層の促進に貢献する
3. 査読を通じて、研究レベルの一層の向上させる
4. 査読付き学術雑誌のさらなる質向上のための方途を検討する

## 本ワークショップで例示的に取り上げる学術雑誌

『原価計算研究』 日本原価計算研究学会機関誌

『管理会計学』 日本管理会計学会機関誌

『メルコ管理会計研究』 牧誠財団機関誌

『会計プロGRESS』 日本会計研究学会機関誌

『経営会計レビュー』 日本原価計算研究学会機関誌

- 但し、他の査読雑誌（特に、経営学関連）にも有用な内容を含む  
Workshopとして設計されている

## 査読に参加するプレーヤーたち

- **投稿者**：研究成果の査読付き学術雑誌への掲載を目指す者
- **編集長・編集委員（論文担当エディター）**：
  - ✓ 査読者の選任を行うとともに、投稿された論文の採択・非採択を決定する者
- **査読者（あなた）**：
  - ✓ 投稿者の論文の評価を行う者

 投稿者は「査読レポート」（査読結果報告書）に対する論文の修正等を通じて自分の論文が掲載に値する価値があることを主張し、査読者からポジティブな評価を勝ち取ることを目指す。

# 査読制度と学術雑誌：査読制度小史

## ➤ 査読制度の歴史

- ✓ *Philosophical Transactions*誌（1665年創刊）の編集長Oldenburgが同誌に掲載する記事を選抜するために採用したプロセス（Peer reviewなし）
- ✓ 現代の査読制度が登場する以前、研究者たちは科学的な審査を受けずに研究成果を発表していた（研究者の個人的・主観的な判断で良し悪しが決められていた、一部の研究領域では、現在でも査読は行われていない）
- ✓ 粗悪な論文が公刊されないように査読制度を活用するという考え方が生まれてきたのは19世紀末（Csiszar 2016, 307-308）
- ✓ Peer reviewが定着するのは、1970年代

# 査読制度に関する『メルコ管理会計研究』の記事

- 小沢貴史・立本博文・挽文子・加登豊・松尾貴巳・安酸建二・岡田幸彦・船越多枝.2024「実態調査研究：査読付き学術誌の査読制度に関する座談会」『メルコ管理会計研究』15(1) 69-80.
- 伊藤嘉博, 尾畑裕, 片岡洋人, 加登豊, 篠田朝也, 丸太起大, 吉田栄介, 澤邊紀生.2023.「『メルコ管理会計研究』(MJMAR)が果たすべきミッションと査読のありかた」『メルコ管理会計研究』14(2) 45-54.
- 伊藤嘉博, 尾畑裕, 片岡洋人, 加登豊, 篠田朝也, 丸太起大, 吉田栄介, 澤邊紀生.2021.「座談会：「査読制度の意義とあるべき姿：先達の経験から考える」」『メルコ管理会計研究』13(1) 81-94.

(参考：研究倫理に関するオンライン会合を2024年3月5日（火）10:00-12:00で実施済み。会合記事原稿は、現在作成中。)

# 査読制度に関する参考文献

石井裕剛.2017.「論文誌編集委員会」『ヒューマンインタフェース学会論文誌』 19(2):72.

伊藤嘉博, 尾畑裕, 片岡洋人, 加登豊, 篠田朝也, 丸太起大, 吉田栄介, 澤邊紀生.2021.「座談会：「査読制度の意義とあるべき姿：先達の経験から考える」」『メルコ管理会計研究』 13(1): 81-94.

井野秀一.2015.「論文誌編集委員会」『ヒューマンインタフェース学会論文誌』 17(3):183.

加藤博一. 2011.「実践講座：論文誌と査読・編集プロセス（ヒューマンインタフェース学会論文誌への投稿の進め（第1回））」『ヒューマンインタフェース学会論文誌』 13(2):41-46.

加藤博一.2005.「投稿したくなる論文誌を目指して」『ヒューマンインタフェース学会論文誌』 7(2):78.

河合隆治. 2022.「日本の管理会計研究のインパクト」『原価計算研究』 46 ((1) ):1-11.

木村朝子.2018.「論文誌編集委員会」『ヒューマンインタフェース学会論文誌』 20(4):219.

黒川隆夫.2002.「論文誌の質的量的向上を願って」『ヒューマンインタフェース学会論文誌』 4(1):2.

仲谷善雄.2006.「論文誌の改革を目指して」『ヒューマンインタフェース学会論文誌』 8(4):217.

日本学術振興会「科学の健全な発展のために」編集委員会.2015.「科学の健全な発展のために：誠実な研究者の心得」.

安村通晃.2003.「ユーザー指向の論文誌を目指して」『ヒューマンインタフェース学会論文誌』 5(1):2.

# 査読制度と学術雑誌：査読の目的

## ・ 査読とは

「**同業者(peer)が審査(review)することであり**，研究論文の学術誌への掲載や研究助成金の採択，科学者の採用や昇進，大学・研究機関の評価など，**科学研究に関わるあらゆる場面で評価の中核になるものです。**

そのような場面ですぐれた判断を行うことができるのは科学者だけであり，科学研究に関わるあらゆる意思決定を科学者コミュニティの手で行っていくことが重要だという認識に基づくもの」（日本学術振興会編集委員会 2015, 96）

→ 政治的圧力やプロパガンダから、研究を守る

## ・ 査読評価基準

『管理会計学』

- ✓ 独創性
- ✓ 貢献性
- ✓ 形式的適切性

『経営会計レビュー』

- ✓ 実務貢献度
- ✓ 新規性
- ✓ 独創性
- ✓ 構成・読み易さ

➤ 『原価計算研究』『管理会計学』『経営会計レビュー』『メルコ管理会計学』のいずれにも「査読」の定義はない。

➤ 「管理会計」「原価計算」の定義もない



## 「査読ゲーム」に参加するプレイヤーたち（再掲）

- **投稿者（あなた）**：研究成果の査読付き学術雑誌への掲載を目指す者
- **編集委員会・編集者**：査読者の選任を行うとともに、投稿された論文の採択・非採択を決定する者
- **査読者**：投稿者の論文の評価を行う者

 投稿者は「査読レポート」（査読結果報告書）に対する論文の修正等を通じて自分の論文の価値（掲載に値する）を主張し、査読者からポジティブな評価を勝ち取ることを目指す。

# デスクリジェクト／査読になじみにくい論文の取り扱い

- デスクリジェクト（門前払い）の対象となるかどうかの判断（編集委員）
  - 書式等（書式、句読点、参考文献表記、引用、注の適切性、字数、図表等のルールなど）が順守されていない論文
  - 投稿規程が順守されていない論文
  - 雑誌の対象外領域の論文
  - 稚拙な文章、ロジックの破綻など
- 査読になじみにくいと考えられている論文
  - 萌芽的研究
  - 学際的研究
  - 既存研究の追試（例：欧米における研究の日本のデータを用いた分析、異なる産業を対象とした論文）
  - 学術雑誌の対象外と判定される可能性のある論文
    - オピニオン論文
    - 単なる事例紹介
    - 規範的論文
    - 提言や推奨
    - ナイーブな研究方法に基づく論文
  - その他

# デスク・リジェクト（即時不受理）（1）

- 雑誌の対象領域外の研究
- 書式等の執筆ルールに従っていない
- 投稿規定に準拠していない
  - ✓ 字数オーバー
  - ✓ 著者がだれかわかる記述（ダブルブラインドの査読の場合）

## デスク・リジェクト（即時不受理）（2）

### ➤ 投稿論文に関連した必要十分で網羅的な先行研究レビューが行われていない

- ☞ 主戦場である専門領域の文献レビューが不十分
- ☞ 重要なもの、特に欠くべからざる過去の管理会計研究が欠落している
- ☞ 先行研究のレビューは網羅的か（管理会計論文への言及は不可欠、レビューは必要十分で網羅的でなければならない、欠くべからざる参考文献には必ず言及すること）

### ➤ 先行研究の大部分が他分野の研究である場合

- ☞ 「必要十分で網羅的に先行研究が渉猟されていない」と判断される可能性がある、（きわめて新規性の高い論文は受理されにくいことを認識しておくこと）

## デスク・リジェクト（即時不受理）（3）

### ➤ 文章表現上に問題がある論文

☞ 「読んでいただく」という謙虚な姿勢が不可欠

☞ 文章表現力に問題がある場合

- ✓ 難解な文章
- ✓ 語彙が少ない・誤字脱字が多い・繰り返し同じような表現 etc…
- ✓ 文章表現上の「封じ手」の多用：  
「・・・べきである」「・・・と思われる」「所々検討の結果、・・・という結論に到達した」

### ➤ 研究目的に適合した研究方法が採用されていない論文

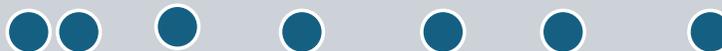
# 査読制度と学術雑誌：査読制度の仕組みと査読プロセス

著者が原稿を提出

編集委員によるスタイルチェック

査読者によるピアレビュー

最終評価：著者と査読者への結果報告



## ポイント：

- ✓ レビュープロセスを少なくとも一巡してから採否の最終決定がされる
- ✓ 原稿は掲載前に少なくとも一度は修正プロセスに回される
- ✓ 修正プロセスを経たからといって掲載は確約されない

編集者のアサイン

デスクリジェクター or 査読者の選定

編集委員による評価

## 査読の修正プロセス

査読能力向上ワークショップ©加登ほか(2024) 牧誠財団助成研究

# 査読はなぜダブル・ブラインドで行われるのか

- 論文の評価からバイアスを排除するため
- ダブルブラインド（二重盲検法）とは何か
  - 投稿者には、だれが査読者であるかを伝えない
  - 査読者は、だれが投稿者であるか知らされない
    - ただし、ある程度は推測は可能
      - 参考文献リスト
      - 研究テーマ
      - 文体等
  - 複数の査読者が選定されている場合、お互いにもう一人の査読者がだれであるかはわからない
    - ただし、ある程度は推測は可能
      - 同門は選ばれないだろう

# 査読のプロセス(第1ラウンド)

1. 論文著者【投稿者】が学術誌に論文を投稿する
2. 学術誌の編集者・編集委員会(以下, 編集者等)【編集者】が投稿論文を検討し, 査読するかどうかを決める  
(形式的不備、雑誌対象外論文等については、査読せずに不受理(デスクリジェクト)とする)
3. 【編集者】は投稿論文を査読するのにふさわしい当該分野の科学者【査読者】(通常2名以上、1名の学会もある)に査読を依頼する
4. 【査読者】は投稿論文を検討し, 査読結果報告書を作成し編集者等【編集者】に提出する
5. 【査読者】からの査読結果報告書を受け, 編集者等【編集者】は論文の掲載(アクセプト)・却下(リジェクト)等を決める。多くの場合は, 条件をつけ, 修正を求める(適切な対応を行ったと判断されたら採択)
6. 編集者等【編集者】は【投稿者】に審査結果を報告する

(日本学術振興会編集委員会 (2015, 96-97))

# 査読のプロセス(第2ラウンド)

1. **【投稿者】** 編集委員会の指示を参考に論文を修正し再投稿する。**【査読者】** は修正論文を検討し、査読結果報告書を作成し編集者等 **【編集者】** に提出する
2. **【査読者】** からの査読結果報告書を受け、編集者等 **【編集者】** は論文の掲載(アクセプト)・却下(リジェクト)等を決める。必要に応じ、**【査読者】** を追加し、査読を継続する。
3. 最終的に結論が出るまで、査読プロセスは継続する。
4. 編集者等 **【編集者】** は **【投稿者】** **【査読者】** に最終審査結果(採択、非採択)を報告する

(日本学術振興会編集委員会(2015, 96-97))

# 編集委員による査読者の選定：必要な情報

- 査読者候補データベースの整備
  - 出身大学院（社会人としての経歴）
  - 研究歴
  - 専門研究領域（管理会計と親和性の高い領域を含む）
  - 学会報告（国内と海外）
  - 査読付き論文（質と量）（国内と海外）
  - 文章力
  - 研究レベル
  - 査読者経験
  - 査読依頼回数
  - 受諾回数（受諾率）
  - 評判
  - その他
- データベースへの査読履歴の追記

# 問題ある査読（者）の事例

- 投稿者から見た査読者への不満
  - 理不尽な査読、不適切な査読
- 査読（者）の問題点
  - 対象論文の読み込み不足
  - 雑誌編集方針等の理解不足
    - 雑誌の特徴、過去の掲載論文の傾向
    - 評価基準
  - 悪意あるコメント、投稿者への攻撃（揚げ足取り）
  - 自分たちの研究領域へ「よそ者」が入ってくるのを阻止する研究グループ

## 編集委員による査読者の選定：査読者の適任性評価

- 対象論文の読み込み
- 査読ルールを理解
- コメントの妥当性
- 丁寧で明快、そして、適量の文章
- 投稿者への気遣い（納得感ある査読コメント）
  - 論文の質向上に資する適切なコメント
  - 論文の質保証レベルに到達していない理由の明快な指摘
  - 「温かみ」を感じさせる文章

## 慢性的に不足している査読者

- 本年度の日本管理会計研究学会の自由論題報告数は、38編
- 全論文が投稿されたとすると、必要な査読者数は114 = 主査(38) + 副査(76)
- スプリットしたときのバックアップ査読者数(10 - 15)
- 必要な査読者数は125 - 130名
  
- 日本管理会計学会会員数は○名
- 編集委員が適任と考える研究者の割合は☆%
  - 優れた査読者数の増加が、査読制度の円滑な運用と研究の質向上・学会の進展のためには不可欠

# 査読依頼の辞退を繰り返す研究者の対応

- ほぼ必ず受諾する
- 原則として受諾するが、状況による
  - 繁忙時は辞退する
  - 論文が対象とする研究領域の知識が十分ではないときには辞退する
- たいていの場合、辞退する
  - 査読辞退を繰り返す者（フリーライダー）への対応（学会としての要検討事項）：対応案の一例
    - 協力依頼（学会発展、研究レベル向上、研究者コミュニティの一員としての役割期待・・・）
    - 注意勧告（辞退を繰り返すと、投稿権を失う可能性に言及）
    - 投稿権の（一時的）はく奪

# 査読が満足レベルに到達していない研究者への対応

- 査読の問題点
  - 担当論文の読み込みが不足している
  - 査読レベルが低い
  - 自説を投稿者に強制する
  - 不受理とすることを査読だと勘違いしている
  - コメントがロジカルではない
  - 文章力に問題がある
  - 十分な時間を割いて査読を行っていない

# 編集委員会による査読結果の決定と伝達

- 査読者の評価を踏まえ、論文の評価を行う。評価結果を投稿者に伝達する
  - 受理：掲載を認める
  - 修正要求：執筆者に必要な修正を依頼する
  - 不受理：掲載を認めない
  - 評価結果を投稿者および査読者に伝達する
- 論文評価の主体
  - 編集委員会が査読者の見解を尊重する（本ワークショップで取り上げているすべての査読付き学術雑誌）
  - 編集委員会が査読者の見解とは異なる判断を行うことができる
- 査読や雑誌編集方針等の改訂を行う

# 査読者レベルの向上を図るための諸方策

- まずは、査読者が査読の意味と意義を理解していることが大前提
  - 査読の質向上機能と質保証機能
- 本ワークショップを含む査読者育成プログラムの開発と実施
- 参加者の査読レポートに基づく研究会の実施
  - 報告論文は事前に研究会メンバーに配布
  - 研究会参加者は、事前に査読レポートを作成し、全員で共有する
  - 研究会では論文執筆者による報告は省略し、すぐに査読レポートを巡った議論と意見交換を行う
  - 終了前に、論文についての評価（受理、修正、不採択）の意見分布を確認し、修正すべきポイントを整理する
  - 修正を要する論文は、以降の研究会に修正論文を提出する

## 今後のための検討事項

- ベスト査読者賞の創設と顕彰
  - 査読者に対する金銭的インセンティブ
  - 査読を「業績」とカウントする仕組みの導入
- 
- 査読料・掲載料を投稿者（論文掲載者）から徴収するかどうか
  - 学会員以外にも投稿を認めるかどうか

# 査読プロセスの「透明化」・魅力度向上のための方策

- 『ヒューマンインタフェース学会論文誌』の試み等を参照

- 査読進捗状況の透明化

- 担当割当中
- 著者照会中
- 査読中
- 査読結果審議中
- 完了

投稿ID	受付日	状況
2512	2024/4/30	著者照会中
2513	2024/5/14	査読中
2514	2024/5/21	著者照会中
2515	2024/7/17	担当割当中
2516	2024/7/17	担当割当中

- 投稿数・採択論文数・採択率

- 「読者の声」欄

- 会員からの会誌掲載記事や学会活動・サービス等に関する建設的な意見、提案等を掲載

- カラー化

- 大学院生・シニア向け年会費軽減制度

# 管理会計関連査読付き学術雑誌の特徴

- 編集方針
- 掲載されている論文の傾向
  - テーマ（研究対象領域）
  - 研究方法論
  - 著者プロフィール
  - 投稿数と採択数（採択率）
- 査読回数、査読期間

# 査読者の役割・業務・取組姿勢・心構え

- 役割
  - 論文読み込み
  - 投稿論文の評価
- 業務
  - 査読レポートの作成
  - 査読レポートに対する投稿者の回答と修正論文に対する査読レポートの作成
- 取組姿勢（投稿者に寄り添う）
  - 質向上
  - 質保証
- 査読者としての心構え

# 査読時の留意点

- 論題は適切か
- 要約は論文の要点を示しているか
- キーワード選択は適切か
- 英文タイトル、要約、キーワードの英語表現に問題はないか
- 当該研究は研究の進展に貢献があるか
- 必要十分な先行研究が渉猟され、適切にレビューされているか。過去の研究の貢献と問題点（未解明な課題）が明示されているか
- 適切な研究方法が採用されているか
- 分析は適切に行われているか
- 分析結果を明瞭に示しているか。分析結果の意味を適切に記述しているか
- 文章は平易で簡潔か
- この研究の貢献と課題がなにかを適切に示しているか

# 研究者にとっての査読の効用と負荷

- 効用
  - 未発表の先端研究に触れられる
  - 査読経験が自身の論文執筆の糧となる
  - 研究の視野が広がる
- 負荷
  - 時間と労力は生半可ではない

# 査読者の基本的な取り組み姿勢

- 研究の進展に貢献する
- 学会活動をさらに活性化する
- 査読者は、執筆者とともに優れた論文を作り上げる  
(査読の質向上機能)
  - 可能な限り掲載できる方向でコメントする
- 査読者は、学会や学術雑誌の最低限の質の保証を行う  
(査読の質保証機能)
  - 査読は、批判的コメントを行うことではない
  - 不受理することが査読の目的ではない

# 査読依頼を受けた時の対応（その1）

- ほぼ必ず受諾する
- 原則として受諾するが、状況による
  - 繁忙時は辞退する
  - 論文が対象とする研究領域の知識が十分ではないときには辞退する
- たいていの場合、辞退する
  - 査読辞退を繰り返す者（フリーライダー）への対応（学会としての要検討事項）：対応案の一例
    - 協力依頼（学会発展、研究レベル向上、研究者コミュニティの一員としての役割期待・・・）
    - 注意勧告（辞退を繰り返すと、投稿権を失う可能性に言及）
    - 投稿権の（一時的）はく奪

## 査読依頼を受けた時の対応（その2）

- 質問票調査回答者75名中、63名（84%）は査読依頼を受けている
- 受諾者の回答
  - 過去5年間に1.8本の査読を担当
  - 査読を受諾する理由
    - 「受諾することは当然である」
    - 「義務であり、義理ものある」
    - 「研究者としての責任」
    - 「社会貢献活動である」
    - 「学会および管理会計研究の発展のため」
    - 「査読を通じて、自分の研究能力を磨く」
    - 「他者の（出版前の）最新の研究に興味がある」
    - 「これまでの査読に対するお礼」
    - 「自らの専門領域の研究である」
    - 「名誉なことである」
    - 「編集委員会のご苦勞に報いるため」
    - 「査読は相互扶助の仕組み」
    - 「良し悪しは別として、査読制度を崩壊させてはならないから」
    - 「断れないと感じる」.

# 査読者向けチェックリスト（案）

- 査読者が査読にあたって利用するチェックリストを作成する
  - 査読に入る前に
    - 本誌の目的を確認しましたか
    - 本誌の投稿規定やレフリー規程を理解していますか
    - 本誌で採用する書式を理解していますか
    - . . .
  - 査読にあたって
    - 担当の論文をしっかりと読み込みましたか
    - 論題は適切ですか
    - 書式は遵守されていますか
    - 文献レビューを適切に行われていますか
    - 文章は明快で平易ですか（×難解、少ない語彙、誤字脱字、繰り返し表現、「べき」「思われる」. . .）
    - ロジックはしっかりしていますか
    - 研究方法は適切ですか
    - 分析は適切に行われていますか
    - 分析結果の記述は適切に行われていますか
    - 研究の進展に貢献していますか
    - 第1ラウンドの査読コメントに適切に対応していますか
    - . . .
  - 査読を終えて
    - 作成した査読レポートの推敲を行い、必要な修正を行いましたか
    - . . .

# デスク・リジェクト相当だと思われる論文の取り扱い

- デスクリジェクト相当と思われる論文の例
  - 体裁や書式などの投稿規定への不準拠
  - 稚拙な文章
  - 参考文献の不備等
- 査読者の対応方法
  - 編集委員に問い合わせる
  - 査読し、問題点についてもレポートで言及する

# 査読レポート作成にあたっての留意点

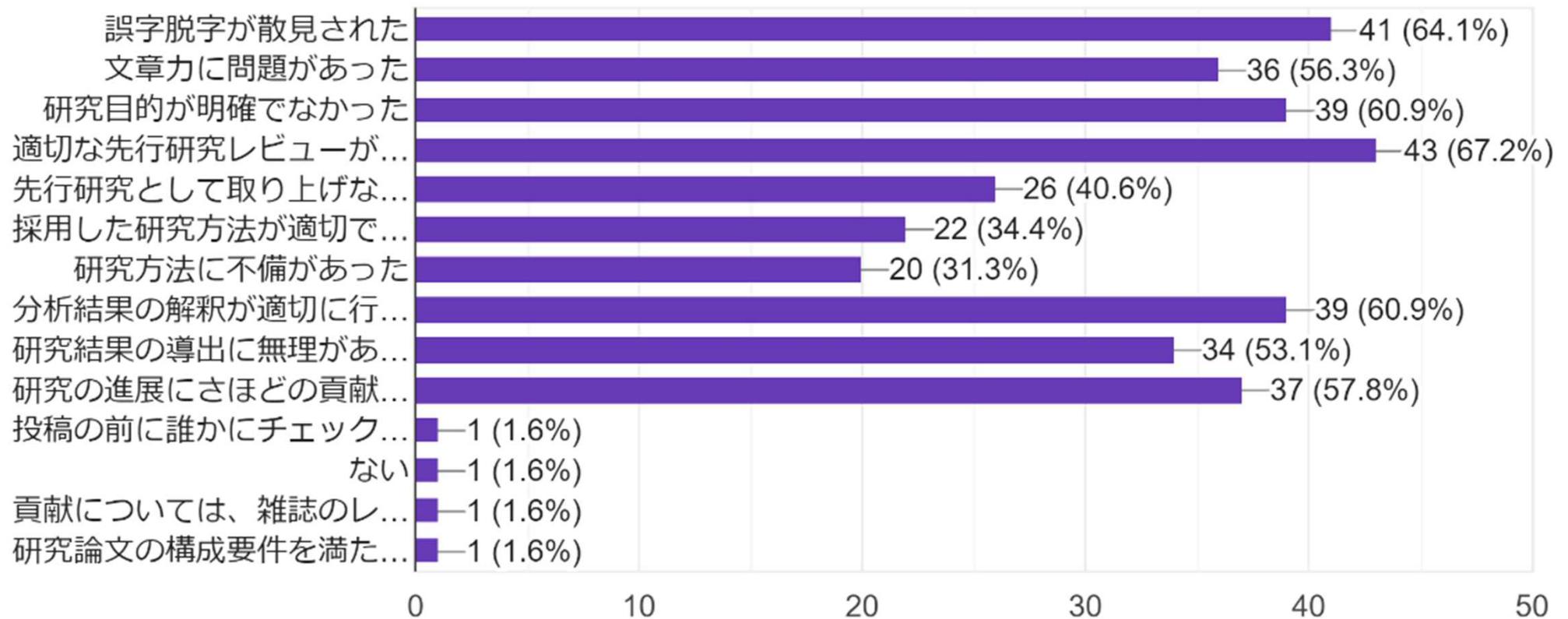
- どの場合でも、筆者に有益なコメントを提供する
  - 受理：受理だが、さらなる研究の進展のための助言
  - 修正のうえ再提出：どの点をどのように修正することが、論文の質向上に貢献するかを明示すること
  - 不受理：不受理の理由を説明する、論文の改善可能性に言及する
- 投稿者が納得する査読レポートを作成する
  - 必要十分なコメント
  - 論文の質が劇的に向上するコメント
  - 明快な文章
  - 投稿者が査読者の心遣いを感じられるコメント
- **【査読実習】** でレポート作成のポイントを再確認する

# 有用だった査読者のコメント

- 研究課題の明確化
- 先行分析に関する指摘（言及すべき先行研究に関する示唆, 研究に基づく適切な論文へのコメント, 先行研究に関する新たな解釈）
- 定量的研究の頑健性を高める追加分析の提案
- 理論・分析フレームワークの提案
- 客観的で具体的な修正事項や追記すべき事項が指摘されているコメント
- 執筆者が気づいていない点の指摘（論文の価値・魅力の提起, 知りえなかった事実, ユニークな視点の教示）
- ロジックの曖昧な部分の指摘, 論理展開の明確化, 認識の誤りの指摘, 文章表現の洗練
- 建設的コメント

# 査読者から見た投稿論文の問題点 (質問票調査の結果)

64 件の回答



## 査読レポートに対する投稿者の認識

(研究調査アンケートより)

質問10： 投稿者の認識

「レフリーのコメントに対応しなければ  
不受理になる可能性が高い」と思われますか？

→回答者の59.2%は「そうおもう」、「ややそう思う」が30.3%)

## 査読結果意見が分かれる場合（スプリット）

- 査読結果のスプリットした経験をもつ投稿者
  - ☞ 投稿者の63.2%はスプリットの経験あり
  - ☞ スプリットしても受理される可能性は決して低くない
- 3人目の査読者に選定された場合
  - ☞ 2名の査読者の回答とそれに対する投稿者の返答を読むことができる場合
    - ☞ 2名の査読者の見解、投稿者の返答も考慮に入れて査読を行う
  - ☞ 2名の査読者の回答とそれに対する投稿者の返答を読むことができない場合
    - ☞ 通常どおりの査読を行う

## 投稿者からの回答への返答

- 指摘に対して、投稿者が具体的にどの箇所をどう修正・加筆・削除を行ったかを確認する
- 指摘すべてについて回答がなされているかどうかを確認する
- 回答に対する返答を行う
- 回答を分析し、投稿された論文の再評価を行う
  - 採択
  - 条件付き採択（『原価計算研究』では2回目の査読が最終回となるので、このオプションはない）
  - 不採択

## 【実習】査読レポートを作成する

- 投稿原稿に対する査読レポートを作成する
  - メモ作成 50分
  - 作成されたメモについて、グループ内で改善点に関する討議を行う30分
- 使用する教材

# 実ケースにみる査読レポートへの対応：査読結果がB（修正のうえ再提出）およびC（不受理）の事例

## ➤学会報告

- 加登豊・木谷あゆみ「管理会計と組織行動の架橋研究：「異動」による人材の学習・成長」日本原価計算研究学会自由論題報告（同志社大学）（2021年09月01日）自由論題報告  
→修正後受理
- 加登豊・平井毅「インターラクティブ・コントロール研究の問題点とその克服」日本原価計算研究学会自由論題報告（成蹊大学吉祥寺キャンパス）（2019年09月03日）自由論題報告  
→不受理

## ➤掲載論文

- 加登豊・木谷あゆみ (2022). 「「異動」による人材育成とBSC:管理会計と組織学習の架橋研究を目指して」『原価計算研究』46(1):88-101.

## 実ケースにみる査読レポートへの対応：査読結果がBの査読レポートに対する対応

- 査読レポートに対する回答（実際の回答は、スライドのみでご覧いただきます）
  - 査読者A：9ページ
  - 査読者B：3ページ

# 実ケースにみる査読レポートへの対応： 査読結果がスプリットした事例

## ➤学会報告

- 佐々慶子・加登豊「医療サービスの原価企画：「診療プロトコル」の逆機能とその克服」日本原価計算研究学会自由論題報告（成蹊大学吉祥寺キャンパス）（2019年09月03日）自由論題報告

## ➤掲載論文

- 加登豊・佐々慶子（2020）． 「診療プロトコルの逆機能研究から得られる知見：製造業の原価企画研究を踏まえて」『原価計算研究』44(2):124-136.

# 管理会計関連査読付き学術雑誌

- 『原価計算研究』
- 『経営会計レビュー』
- 『メルコ管理会計研究』
- 『管理会計学』
- 『会計プロGRESS』

## 実ケースにみる査読レポートへの対応： 査読結果がスプリットした事例（続き）

- 査読レポートに対する回答（実際の回答は、スライドのみでご覧いただきます）
  - 査読者 1：8 ページ

## 優れた投稿者・査読者となるために

- 査読依頼を受けた経験を活かす（84.2%は経験あり）
  - 常に受ける 68.8%
- 査読の目的（研究のさらなる向上）を忘れない
- 査読は投稿者の義務

# 投稿先雑誌の特徴：『原価計算研究』

- 管理会計関連で投稿論文数が最も多い学術雑誌の1つ
- 投稿条件：直近の全国大会（8月下旬－9月上旬），全国大会直前の部会、その他当学会が主催ないし共催する研究会で執筆・発表
- 学会報告用フルペーパー提出期限：6月末
- 学会報告決定：7月下旬
- 投稿締切：毎年9月末、掲載決定：翌年の4月前後

## ➤ 実績：

- 学会報告数（2019年全国大会）：48編、投稿論文数：不明
- 採択論文数：24編、採択率 約50%

## ➤ 特徴：

- ☞ 査読結果が投稿から6か月前後で明らかになる
- ☞ 不採択の場合、迅速に次のアクションをとることが可能

# 投稿先雑誌の特徴：『経営会計レビュー』

- 日本原価計算研究学会のオンライン・ジャーナル(査読付き)
- 『原価計算研究』とのすみわけが行われている
- 投稿条件:下記「特徴」参照
- 投稿時期:随時
- 実績
  - 第3巻まで刊行されているが、これまでの掲載論文はすべて依頼論文。第4巻から査読による論文を受け付ける予定。
- 特徴:投稿条件:下記の特徴を有する管理会計論文(日本語・英語)
  - ☞ 管理会計、原価計算の先進的・特徴的な実務を紹介したもの
  - ☞ 管理会計・原価計算技法に関する他産業への導入事例を紹介したもの(理論的な新規性はなくとも実務への導入事例に有意義なもの)
  - ☞ 実務への啓発的な示唆に富んだ議論
  - ☞ 社会的に注目を集めた課題のうち、学会としての情報発信の必要性・緊急度が高いもの

- ✓ 『原価計算研究』での掲載は困難だが、一定の社会的価値のある研究を積極的に掲載することを目的
- ✓ 投稿条件に示したような特徴を有する論文(特に、社会人論文あるいは社会人との共同論文)に適している

## 投稿先雑誌の特徴：『メルコ管理会計研究』

- 投稿論文の価値を最大限に引き出すための丁寧な査読  
(そのため、査読期間が長期化する可能性あり)
- 投稿条件：牧誠財財団の助成研究は、投稿が義務付けられている。  
加えて、自由な投稿も受け入れている。
- 投稿締切： 随時受付
- 特徴：
  - ☞ 研究助成金の獲得と査読雑誌への論文投稿が一体化。
  - ☞ しかし、投稿が行われていないケースも少なくない  
(深刻な問題と財団は認識している)
  - ☞ また、助成金による研究であっても、不受理となる場合がある

## 投稿先雑誌の特徴：『管理会計学』

- 日本管理会計学会の機関誌（投稿は随時受付）
- 学会誌関連規程
  - 学会誌投稿規定
  - 学会誌執筆要領
  - 学会誌投稿申込書
  - 学会誌レフェリー基準
  - 学会誌レフェリーのガイドライン

# 投稿先雑誌の特徴：『会計プロGRESS』

- 日本会計研究学会の機関誌（投稿は随時受付）
- 管理会計関連の雑誌の中では、もっとも評価ポイントが高い
- 編集方針
- 『会計プロGRESS』は、日本会計研究学会が会員による研究を公表するたに刊行する学術雑誌です。高水準の研究を掲載し、これによって学会の研究成果を広く社会に公開することを目的とします。期待される読者は、研究者、教育者、大学院生、実務家、その他の会計研究に関心を持つ人々を想定しており、会計に関する知識の増大に広く貢献することを目指します。
- 本誌が掲載する論文は、財務会計、管理会計、監査・保証、簿記、税務会計、情報システム、非営利会計、その他の会計領域における研究で、既存研究の延長線上にある研究のみならず、新しい視点からの研究、実証研究、理論研究、実証研究、実験研究等）による研究も受け入れますが、新規領域の研究も受け入れ、各領域の研究を横断する研究のみならず、研究方法に関する議論も掲載対象とします。
- 機関誌投稿要項（2022年7月2日）
- 投稿用テンプレート
- 投稿方法

# 管理会計関連査読付き学術雑誌の査読にかかわる諸規定

- 『原価計算研究』
- 『経営会計レビュー』
- 『メルコ管理会計研究』
- 『管理会計学』
- 『会計プロGRESS』

# 査読に関する諸規定の内容分析：日本原価計算研究学会

- [研究倫理綱領\(2021年8月31日制定\)](#)
- [研究倫理チェックリスト\(2022/08/02更新\)](#)  
[PDF版](#) [Word版](#)
- [『原価計算研究』編集委員会運営細則\(2022年9月7日改正\)](#)
- [『原価計算研究』レフリー制度運用基準 \(2021年8月9日改正\)](#)
- [学会誌投稿規定\(2022年9月6日改正\)](#)
- [『原価計算研究』執筆要項\(2022年9月6日改正\)](#)
- [『経営会計レビュー』編集委員会運営細則 \(2022年9月7日改正\)](#)
- [『経営会計レビュー』投稿規程 \(2022年2月28日改正\)](#)
- [『経営会計レビュー』執筆要項 \(2022年2月28日改正\)](#)
- [個人情報取扱規程\(2022年9月6日制定\)](#)

# 『原価計算研究』レフリー制度運用基準

# 『メルコ管理会計研究』：査読に関する諸規定の内容分析：牧誠財団

- 投稿論文執筆要領
- 査読制度運用規程（2022年4月改訂）
- 院生論文査読制度運用規程（2022年4月改訂）

# 『管理会計学』レフェリー基準

- 第1条 目的
- 第2条 常任編集委員会の権限
- 第3条 研究領域による掲載可能性（査読者と編集委員会の  
権限）
- 第4条 査読者の審査事項（レフリーのガイドライン参照、4，  
5，6項もよく理解する）
- 第5条 実証研究資料の提示請求
- 第6条 その他（「レフェリー所見（1）」書式、査読結果  
の記録」書式→レフェリーにのみ配布か？）
- 第7条
- 付則

# 『管理会計学』レフェリーのガイドライン

- 投稿論文の評価基準
  - 独創性（いずれか）
    - 問題設定、適用領域に独創性がある
    - 発見、知見、事例に独創性がある
    - 理論、方法論、技法、解法に独創性がある
    - アプローチ、モデル、システムに独創性がある
  - 社会的ないし学術的貢献性（いずれか）
    - 学術的、技術的、または社会的課題に込えている
    - 実用化、改良、改善などによる成果がある
    - 波及効果、啓発効果がある
    - 理論や方法の拡張、体系化、視点の転換などの成果がある
    - 管理会計の領域との関連が深く貢献度が高い
- 形式的適切性（すべて）
  - 「はじめに」（序論）の部分で次のことが明記されていること
    - 研究目的ないし研究課題が明確に述べられている
    - 研究の必要性と意義が明確に述べられている
    - 研究課題に関する先行研究のサーベイが適切になされている（ただし、先行研究については別に節を設けてもよい。）
  - 論旨の展開が明確である
  - 「まとめ」（結論）の部分で、研究目的に対する研究成果、主張点のまとめ（要約）が明記されている
  - 内容や記述に誤りやあいまい性がない
  - 図表、文体が簡潔かつわかりやすい

# 『会計プロGRESS』機関誌投稿要綱（2022年7月2日）

# 実ケースにみる査読レポートへの対応： 査読結果がスプリットした事例（続き）

## ➤査読プロセス

1. 9月末日 原稿投稿締切

☞1回目（査読者1）**評価B** （査読者2）**評価B**

☞査読レポートへの対応（次の2枚のスライドを参照）

2. 12月25日 査読レポートに基づく修正原稿の提出

☞2回目（査読者1）**評価A** （査読者2）~~評価C~~

☞規定により第3査読者を編集委員が選定、**結果 B**

**スプリット**

3. 3月30日 査読者3の査読レポートへの対応した修正原稿の提出

☞3回目（査読者） **評価 A** → 規定により掲載決定

# 補論：二刀流（両利き）の研究者を目指す

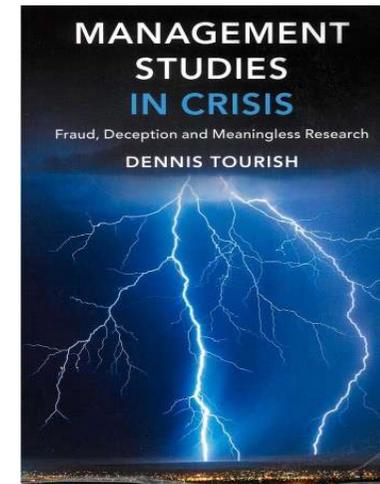
## ■経営学研究のレゾンデートル（存在意義）

### ➤ 研究の進展に貢献する研究者

- 世界をリードする研究者を目指す
- 査読付き学術雑誌への貢献
- Academic researchの歪みをただす

### ➤ 社会に貢献する研究者

- 日本社会の現状を客観的に理解する。  
救世のための研究に従事する。
- MBA学生との共同研究の推進  
（2019年以降これまでのMBA修了生との共同学会報告14件（国内11件、国外3件、査読付き論文8編、WP3編） <https://researchmap.jp/read0014935>
- academic functional chimneyからの脱却（忘れよう「井の中の蛙、天空を知る」）
- コンサルティング
- 社外取締役



# トゥーリッシュ氏の改善提案へのコメント（1）： 研究発表とその媒体

## ➤ 「論文刊行ゲーム」から抜け出す

- 両利きの研究者を目指す
- 査読付き論文 +  $\alpha$   
( $\alpha$  = 書籍、教育研究、研究方法論研究、エッセイ、社外取締役、コンサルタント、研修講師等…)
- 論文の「中身」で勝負する

## ➤ 発表媒体

- 論文 + 書籍などの執筆・刊行を推奨（ただし、書籍出版環境は急速に悪化している）
- マスコミ露出を通じて意見を述べる

## ➤ ロールモデル（査読論文に拘束されない生き方）：

- 伊丹敬之、加護野忠男、金井壽宏、藤本隆宏、延岡健太郎、楠木建、入山章栄、長内厚 . . . . .
- 書籍等の「中身」で勝負する

## ➤ 理論的な貢献以外の貢献も評価する

- 教育、社会貢献、学内行政

## トゥーリッシュ氏の改善提案へのコメント（2）： 研究者としての生き方

### ➤ トップジャーナルでの論文掲載や一流大学での栄達（出世）以外の目標

☞ 生きる目的を考える

### ➤ 多くの人々にとっての真の意味での重要な現実的問題に取り組む

☞ ただし、経営実践者の「確証バイアス」という高い壁がある。

☞ それを乗り越えることは至難の業。「憂国の士」は社会に受け入れられにくい

### ➤ 一般の人々にも理解しやすい理論を用い、また平明な言葉で書く

☞ 読める文章を書く

☞ 読者を魅了する文章を書く

☞ 「楽屋落ち論文」で自己満足しない

## トゥーリッシュ氏の改善提案へのコメント（3）： 研究者・大学に対する評価

### ➤ 大学ランキング、ジャーナル・ランキングに囚われない

- ☞ いくら頑張っても、ランキングは外国製のため、トップ10には入れない。社会科学・人文科学は評価されない風潮
- ☞ 日本はすでにガラパゴス。居直って？この国で特異種（将来のグローバル・スタンダードの種）を生み出すことに専念するのも悪くない。

### ➤ 研究助成金の獲得状況を過度に重視しない

- ☞ 科研費以外にも多くの研究助成金がある（例：牧誠財団）
- ☞ 各種在外研究支援制度、コンサルティング収入、奨学寄附金や寄付講座の獲得等・・・

### ➤ 失敗のリスクもあるが大胆な研究計画を練る

- ☞ 牧誠財団のように優れた研究を支援してくれる財団を設立してもらう

## このセミナー受講後のみなさんは

- 間違いなく、自分自身の投稿論文の採択率が向上する
- 査読者としての能力が向上する
- 査読付き学術雑誌の質向上に貢献できるケイパビリティが強化される

## 迷う判断（逆機能のコントロールの視点から判断するのも一法）

- 「石を捨てることはあっても玉を捨てることなかれ」という考え方の是非
- 査読者意見と編集委員の評価の違いをどう処理するか
- 徹底的な査読か、短期間での結論出しか
- 査読料・掲載料を投稿者（論文掲載者）から徴収するかどうか
- 査読者に金銭的インセンティブを与えるか
- 学会員以外にも投稿を認めるかどうか
  
- 査読付き学術雑誌向きではない研究の取り扱い（『経営会計レビュー』の試み）